令和８年８月６日

五台山地区 地区別事前復興まちづくり計画 ワークショップ資料

目　次

ワークショップの進め方 P2

発災から復興まちづくりの流れ P4

事前復興まちづくり計画とは P5

地区の現状と災害リスク等 P9

ワーク１：五台山のいいところ残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。 P12

津波浸水深と復興の種類の関係性 P13
復興パターンの概要説明

ワーク２：復興パターン２案について、意見を共有しましょう。 P21

ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。 P22

次回開催のご案内 P23

高知市　防災対策部 防災政策課

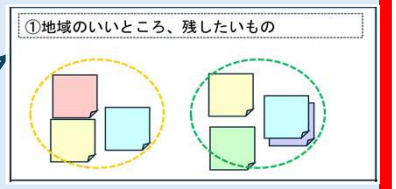
ワークショップの進め方（全体）

第１回ワークショップ（計100分）

・事前復興まちづくり計画の目的
・地区の現状と課題を説明　（15分）

ワーク１　地区のいいところ・残したいもの
困っていること　（25分）

Point
被災後の「ビジョン=目指すべき姿」へつなげる



・復興パターンの概要説明　（10分）

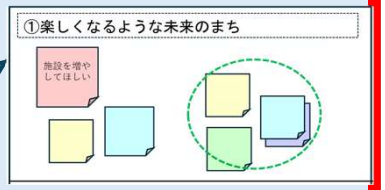
ワーク２　復興パターンについて感想　（25分）

Point
復興パターンに対する意見を述べてもらい
第2回目に修正案を提示



ワーク３　楽しくなるような未来のまちを想像する　（20分）

Point
ゾーニングに対する意見を引き出す



・まとめ（5分）

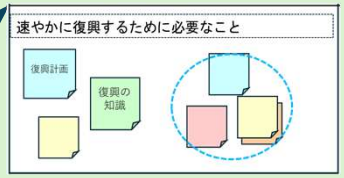
目標　自分の地区の特徴を知ってもらい、復興パターンの意見をもらう

第２回ワークショップ（計100分）

・第1回ワークショップ振り返り（ワーク１、ワーク３）　（15分）
・目指すべき姿(案)の提示　→ 意見交換１（25分発表込み）
・第1回ワークショップ振り返り（ワーク２）
・修正復興パターン案の提示　→ 意見交換２
（説明10分　ワーク20分　発表5分）

ワーク４　速やかに復興するために必要なこと（20分）

Point
・被災後の自立再建を意識してもらう
・復興でのすべきことを知ってもらい復興中の活力につなげる



・まとめ（５分）

目標　復興ビジョンを取りまとめ、修正復興パターンの意見をもらう

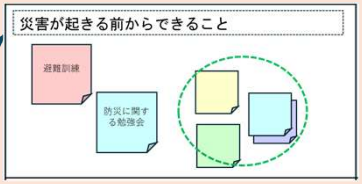
第３回ワークショップ（計100分）

・第2回ワークショップ振り返り（意見交換１）
・最終目指すべき姿(案)の提示
・第2回ワークショップ振り返り（意見交換２）
・最終復興パターン案の提示
→ 意見交換３（50分発表込み）

・第2回ワークショップ振り返り（ワーク４）

ワーク5　災害が起きる前からできること（35分発表込み）

Point
防災意識の向上
地域での防災活動の啓発



・まとめ（15分）

目標　復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!

被災後　被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



○本日のワークショップの進め方

①事前復興まちづくり計画の目的
　地区の現状と課題（19:00～19:15）





②ワーク１：**五台山地区のいいところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて意見を共有しましょう。**（19:15～19:40）





③復興パターンの概要説明（19:40～19:50）

④ワーク２：**復興パターンについて意見を共有しましょう。**

⑤ワーク３：**楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。**（19:50～20:35）

⑥まとめ（20:35～20:40）





発災から復興まちづくりまでの流れ

発災　（直後）



避難・避難所（直後～数か月）

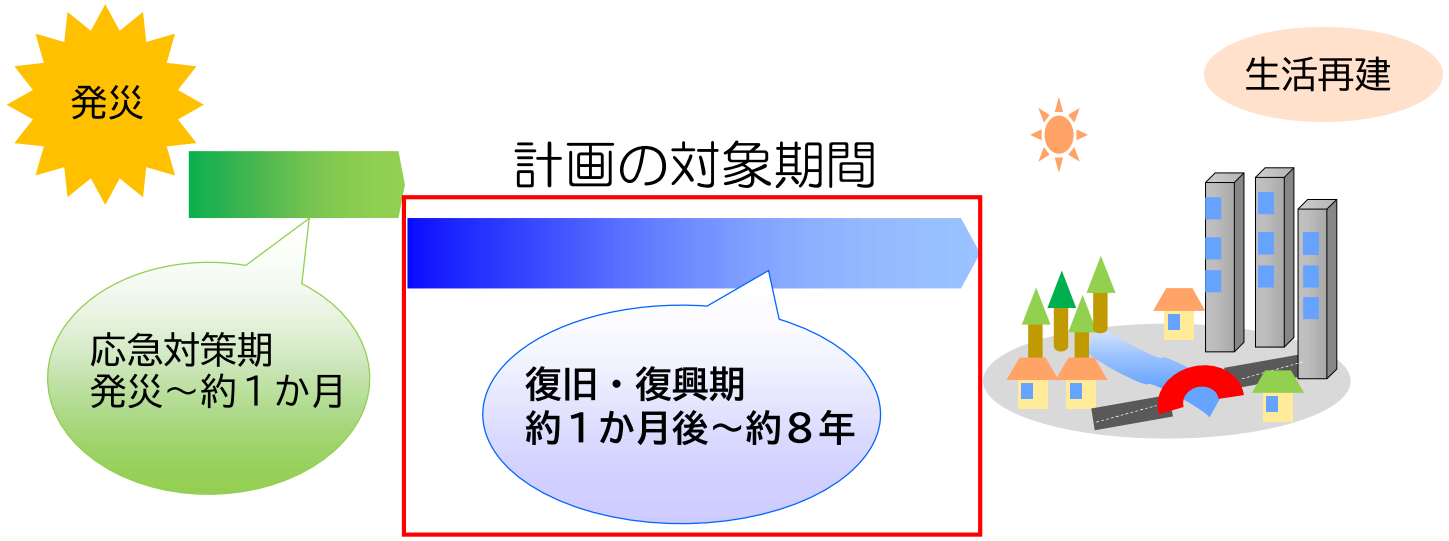




復興まちづくり検討
（数か月～）



復興までの目標を約８年とし、本計画の対象期間は、
発災から約１か月以降の「復旧・復興期」



事前復興まちづくり計画とは

被災前に作成

高知市

事前復興まちづくり計画

・復興基本方針
・地区別事前復興まちづくり計画
など

地域の方々の想い

被災状況に応じ速やかに策定

地域の方々の意向

被災後に作成

高知市

復興計画

・復興計画の区域
・復興に関しての基本事項
など

※大規模災害からの復興に関する法律



［大規模災害からの復興に関する法律に基づく復興計画　作成マニュアル　抜粋］

復興計画は、特定大規模災害による被害を受けた地域の復興に向けたまちづくり・地域づくりのための計画として地域の様々な意見を考慮して作成するものである。

地区別事前復興まちづくり計画とは

地域ごとの特性やリスクに応じて、
具体的な復興まちづくりの方針等を取りまとめたもの

何を考えるの？

①土地利用　　②復興の仕方　など

※復興パターンを確定させるものではない

どうやって進めるの？

市で作ったたたき台を基に、まちのみんなで
話し合おう！

次世代へバトンタッチ

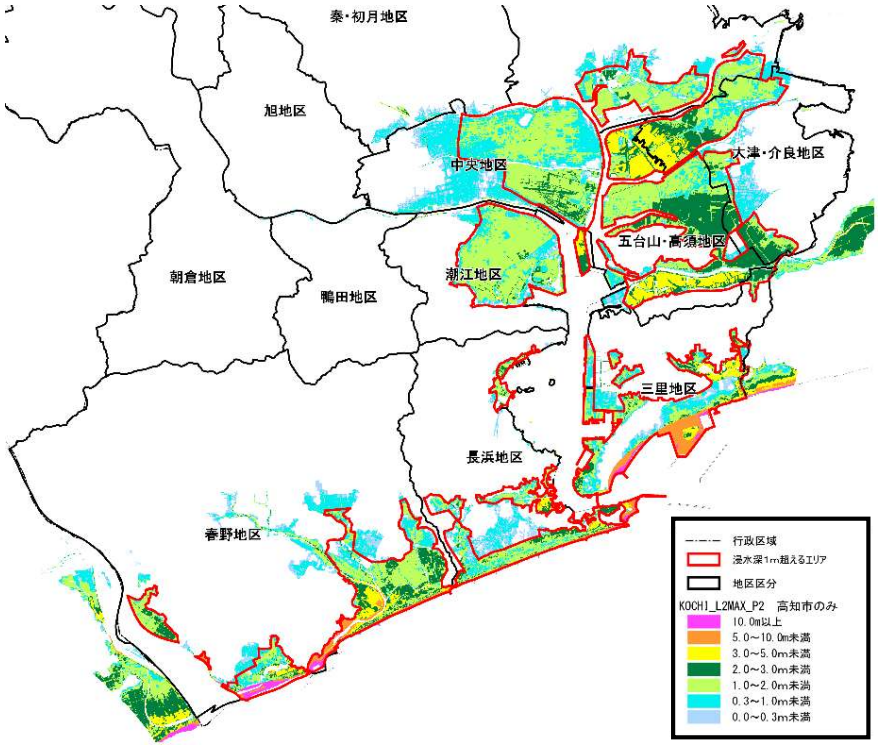




＜対象地区及び対象区域＞

高知県が令和６年５月に公表した新しい津波浸水シミュレーションを基に、計画策定の対象となる地区を決定。

中央、潮江、長浜、三里、春野、五台山・高須、
大津・介良、布師田・一宮



復興まちづくりの事例



狭い道が多い

津波から避難できる
高い建物が少ない



被災したまちを単に元の姿に戻すのではなく、被災前に抱えていた課題や問題点を整理・改善することで、より良い復興（ビルド・バック・ベター）の実現が可能となる。

①避難路となる広い道路の整備



②津波避難ビルとなる市営住宅の整備



③河川の景観を生かした観光･にぎわい拠点の整備



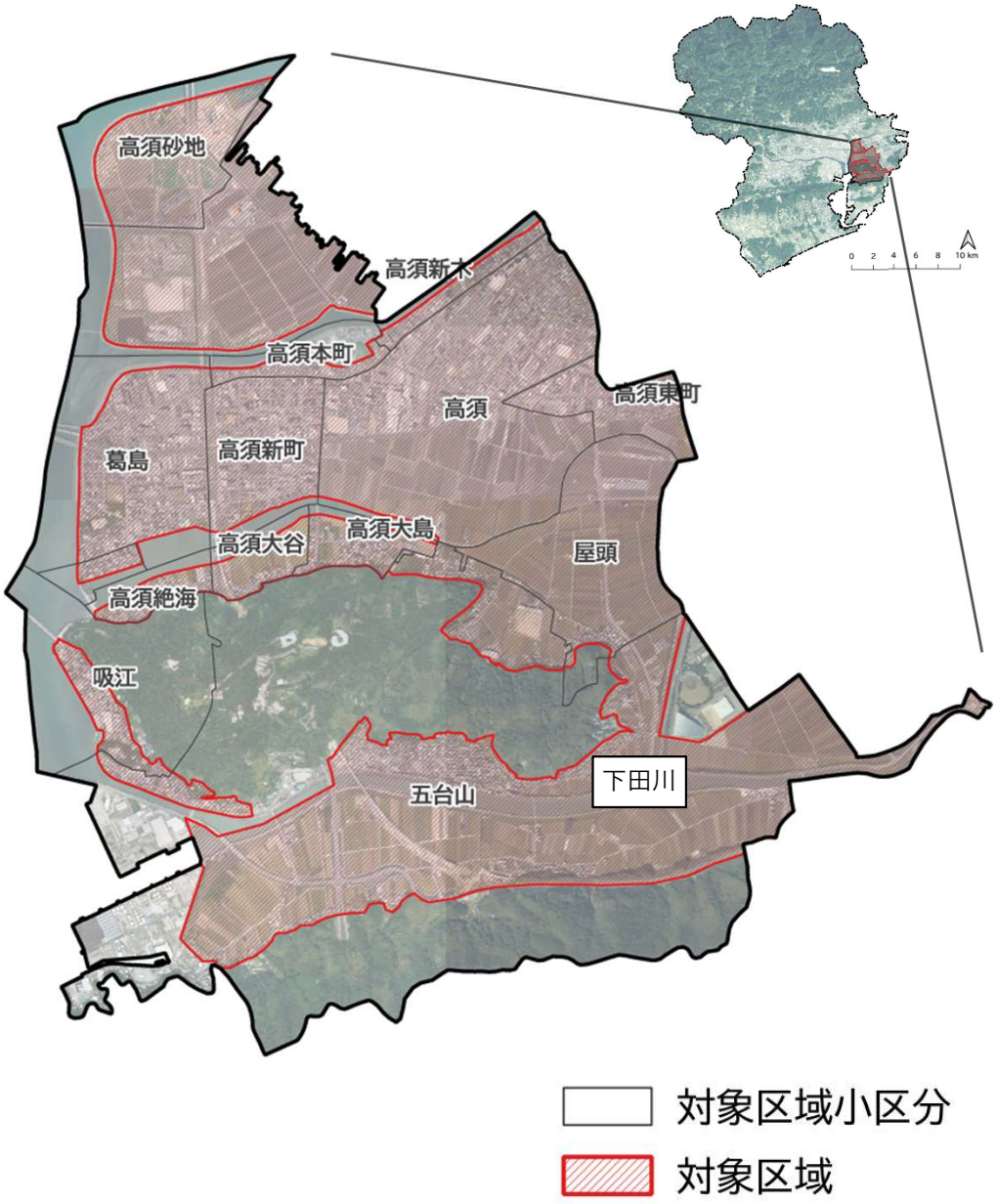
想定される災害及び復興対策

想定される災害	復興対策(面的な被害が生じた場合)
津波：最大クラス(M9.1)の津波を想定。内陸部１～２ｍ、沿岸部は２～５ｍ。	津波浸水深に応じ、地域特性や被害特性をふまえた復興パターン
揺れ：震度６から７による被害が想定。	原則、現地再建（建物築年代や道路事情に応じ区画整理事業等）
液状化：面的な液状化の恐れがある地域が分布。	原則、現地再建（被災状況に応じ宅地液状化防止事業等）
土砂崩れ：揺れにより土砂崩れが発生する可能性。	現地再建、被害の恐れが残る場合移転等
火災：木造密集地域では火災が広がる可能性。	現地再建、建物耐火性向上消防活動円滑化のための道路等基盤の整備



【五台山・高須地区の現状】

➢ 【地区の位置】



人口

➢ 人口（令和７年４月時点）
　総数　　13,799人（６５歳以上 ４,００６人）
　対象区域　13,272人（６５歳以上 ３,７８７人）
➢ 人口減少率・高齢化率ともに市平均よりやや低い。

土地利用

➢ 【高須地区】
　国道32号(南国バイパス)を中心に市街地や県立美術館などの施設が立地。
　高須土地区画整理事業により、良好な市街地環境が整備されている。
➢ 【五台山地区】
　自然・文化資源が集積する五台山を取り囲んで、住宅地や集落、南側に農用地が広がる。
　高知東部自動車道高知南ICが整備され、高知自動車道や県東部への交通結束点となっている。

産業

➢ 北部の高須地区内では国道32号(南国バイパス)を中心に沿道を中心に商工業が多く立地。
➢ タナスカ石油基地は県内の石油系燃料の約90%を貯蔵する事が可能で、燃料供給の要所となっている。

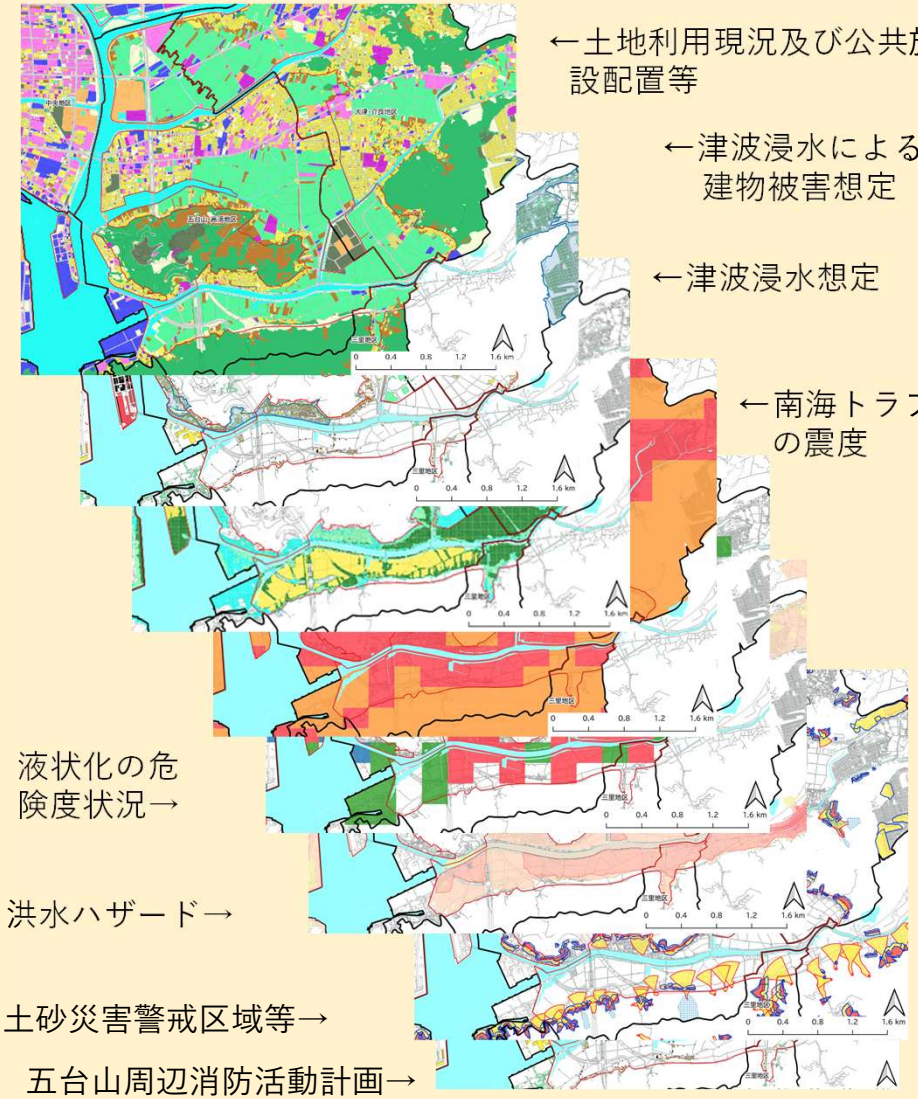
文化

➢ 五台山周辺に重要文化財や県指定の史跡など歴史・文化施設が多く分布し、観光の資源としても注目されている。

【災害リスク】

データを重ね合わせる

＜五台山・高須地区の災害リスク等＞



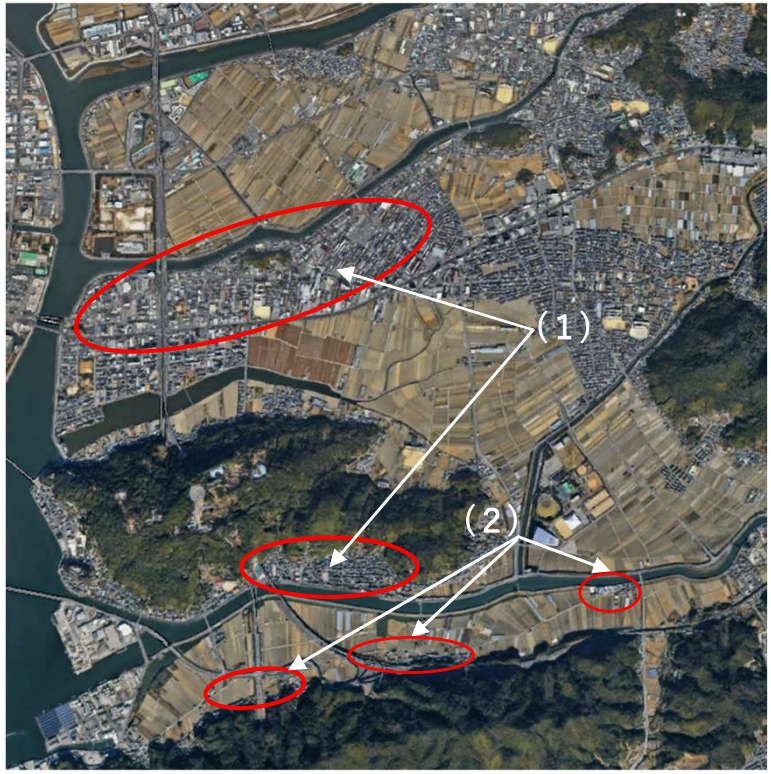
①共通リスク

・住宅等の大半が津波浸水深※2m未満、農地は3m以上の地区も存在。
・市街地等は震度７の揺れ、液状化の可能性が高い。
・五台山など山地周辺で土砂災害特別警戒区域等が分布。
・五台山周辺の重要文化財等は火災による被害の可能性。

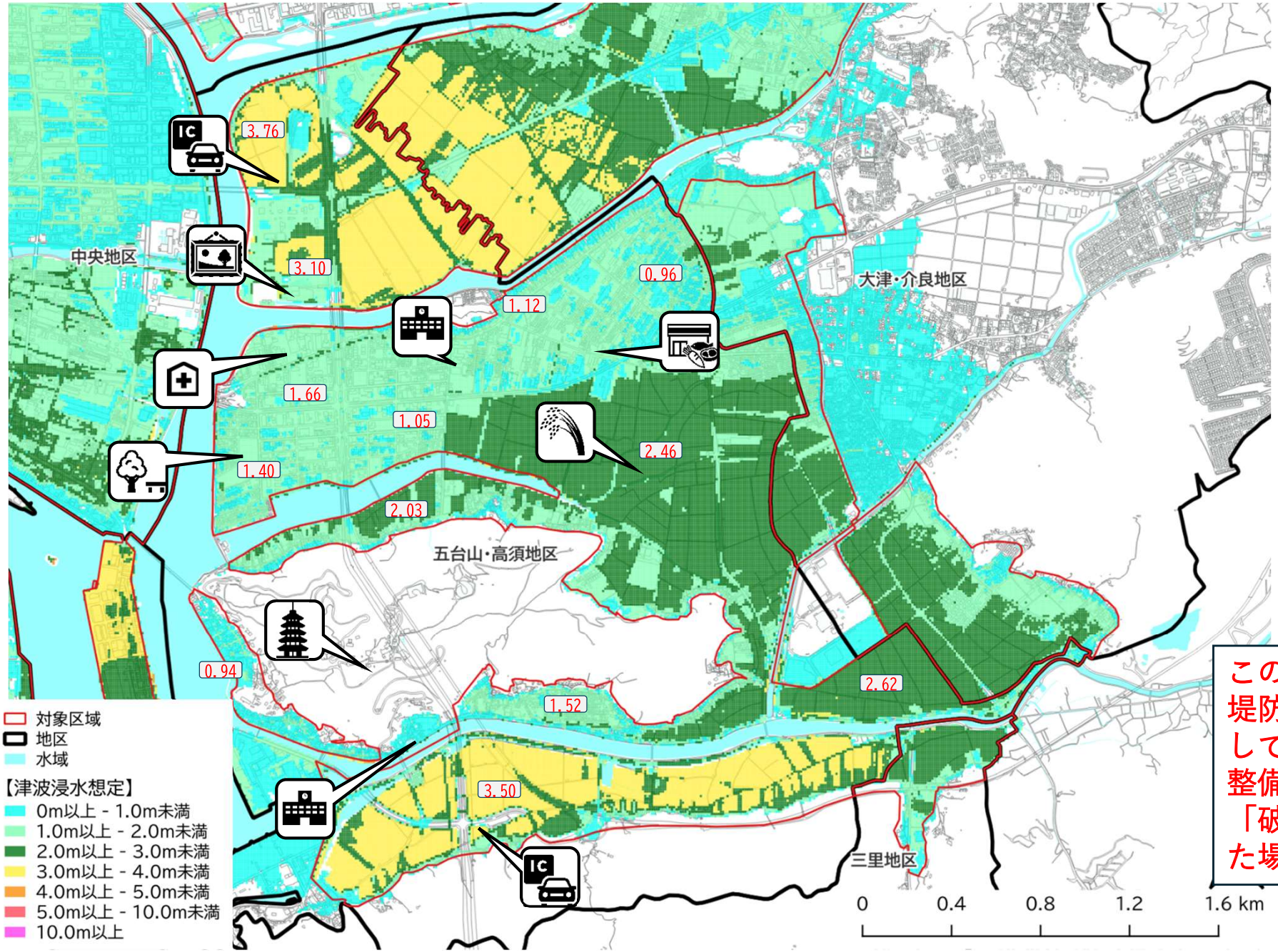
※L2津波を想定

②重点リスク

(1) 低地住宅地の浸水被害の可能性(浸水深1m以上2m未満)
(2) 浸水深２ｍ以上の住宅を含む集落部の津波被災の可能性



高知市で想定される災害について～事前復興まちづくりの津波浸水想定





このシミュレーションは、堤防等の耐震整備が完了している区間及び耐震整備の計画がある区間が「破壊しない」と仮定した場合のものです。

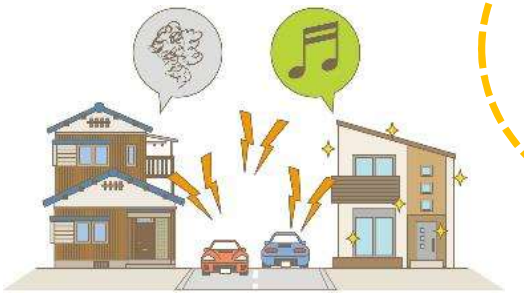
さぁ、みんなで話し合ってみよう！



ワーク１：五台山地区のいいところ・残したいもの、普段の生活で困っていること について、意見を共有しましょう。

被災後の住民への
メッセージ的なもの
ビジョン＝目指すべき姿
を考える





普段の生活で困っていることを復興パターンで解消する＝より良い復興

例）つながる安心
自然と共に生きるまち

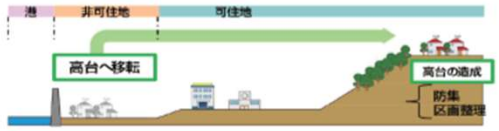
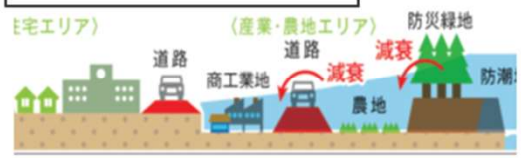
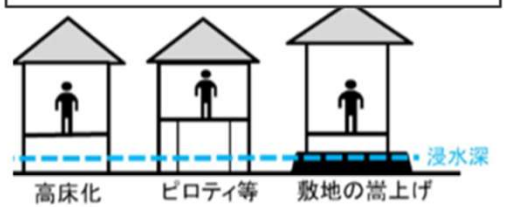
復興パターンへ反映

津波浸水深と復興の種類の関係性

移転・嵩上げ

2ｍ以上

現地再建

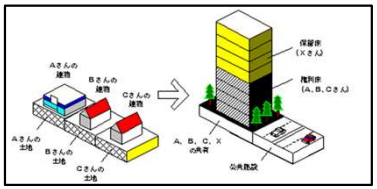
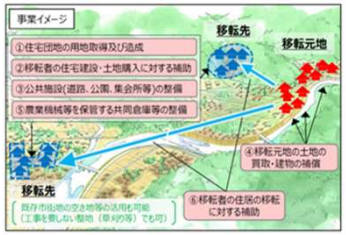
浸水深	考え方	復興の方向	復興パターン	パターンイメージ
３m以上 （２階以上）	大規模再編	**大規模な基盤・土地利用の整備が必要**	・高台移転 （元地は建築制限） ・大規模な嵩上げ	■高台移転イメージ 
２～３m未満 （１階天井）	改善復興	**嵩上げや道路等基盤の整備が必要**	・高台移転 ・嵩上げ ・街区単位等の嵩上げや建築規制等	■嵩上げイメージ 
１～２m未満	修復復興	家屋の再利用が可能 浸水深の低減、避難の安全性の向上 狭隘道路や木造家屋が密集する地区については、道路基盤整備等の検討が必要	・二線堤などの多重防御 ・嵩上げ	■現地再建・多重防御イメージ 
０．３～１m未満	現地復興	家屋の再利用が可能となる軽微な被害 避難対策と合わせた現地復興	・浸水深の軽減対策 ・既存の居住機能の確保	■現地復興イメージ【浸水深の軽減対策】  出典:水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン(令和３年５月、国土交通省　都市局 水管理・国土保全局 住宅局)
０～０．３m未満	現状維持	建物の被害は少なく、復興後の津波安全性は高いため現状維持	・現状の居住機能の維持を前提	

※　住宅の復興パターンについては、これまでの都市基盤整備が概成していることから、**原則現地再建を基本**とする。また、東日本大震災等での建物被災状況を踏まえ、**浸水深２m超を基準として、高台移転も復興パターンの選択肢として検討**する。

※　農地や商業地については現地再建を基本とするほか、浸水深２m以上のエリアも候補として立地を検討する。

【復興パターンの概要説明】

【復興パターンにおける事業手法の内容】

	現地再建（嵩上げ含む）	移転
ポイント	住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ➡道路基盤の整備と共同化、面的嵩上げ等による安全な居住空間の確保	甚大な被害が想定される箇所からの、高台や内陸への移転による、安全な居住地の確保・コミュニティの維持
主な活用事業	・市街地再開発事業、土地区画整理事業 権利変換による共同床の取得 ・災害査定による原形復旧  	・防災集団移転促進事業 元地の売却と安全な宅地の取得 
効果 （メリット）	・現在の生活再建、コミュニティの維持 ・土地利用の高度化、最適化(集約化) ・国等の支援措置の活用	・安全な場所への移転による生命や財産の安全性確保 ・国等における支援措置の活用
課題 （デメリット）	・合意形成の長期化、整備の長期化 ・減歩や権利変換などの負担 ・居住・経営形態の変化	・合意形成の長期化 ・コミュニティの分断 ・利便性の低下

復興パターンの検討～主要イメージ

【地区の被害特性】

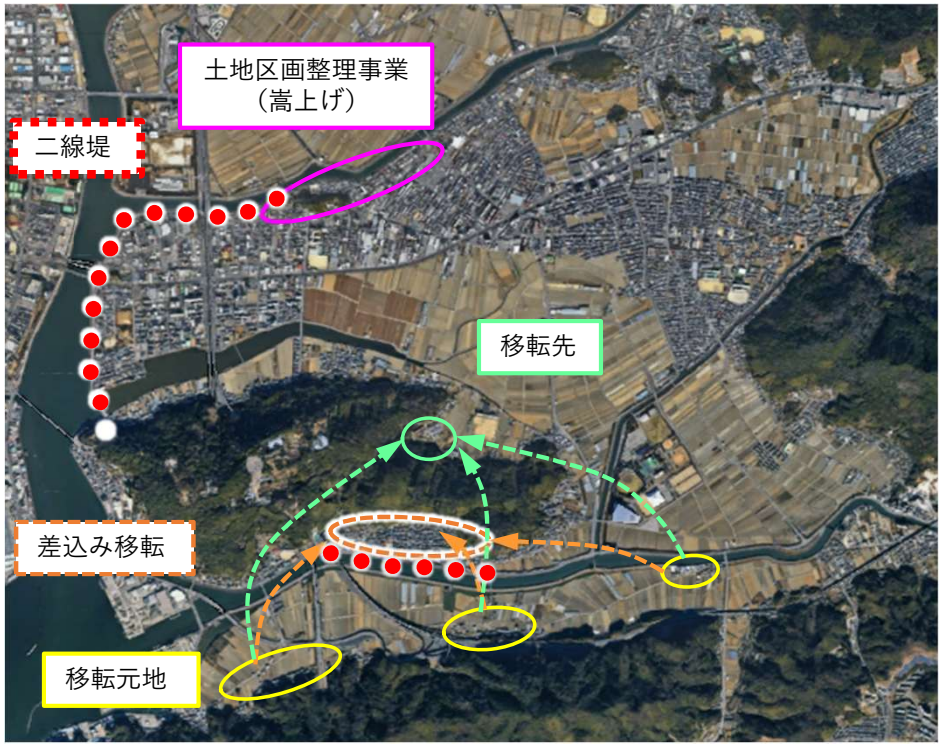
- 高須、五台山では津波浸水想定が1m以上2.0m未満の市街地が広範囲に存在する
- 復興に際して基盤整備が必要な地区も分布する。
- 五台山地区の南部では最大浸水が3.0m以上の地域も存在する。

復興ビジョン

文化・自然と都市・田園がつながり、安心で活力ある生活を育むまち

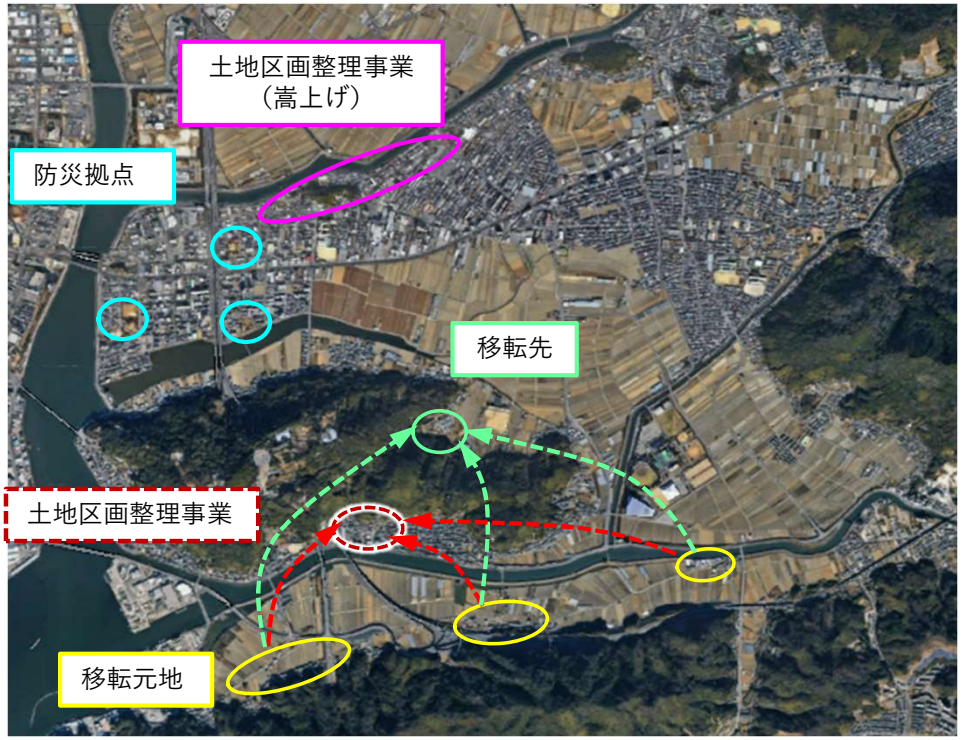
五台山公園・県立美術館等をはじめとする文化的な集積、土佐電による交通利便性を備えた高須市街地、五台山麓を中心とする田園環境などが、高知北環状線等でつながり、災害から安全安心で、それぞれ地区のコミュニティ・産業の活性化を図り豊かな生活を再建を目指します。

【第１案】二線堤形成＋移転対応案



- 二線堤と合わせた住宅地の復興と移転先の確保

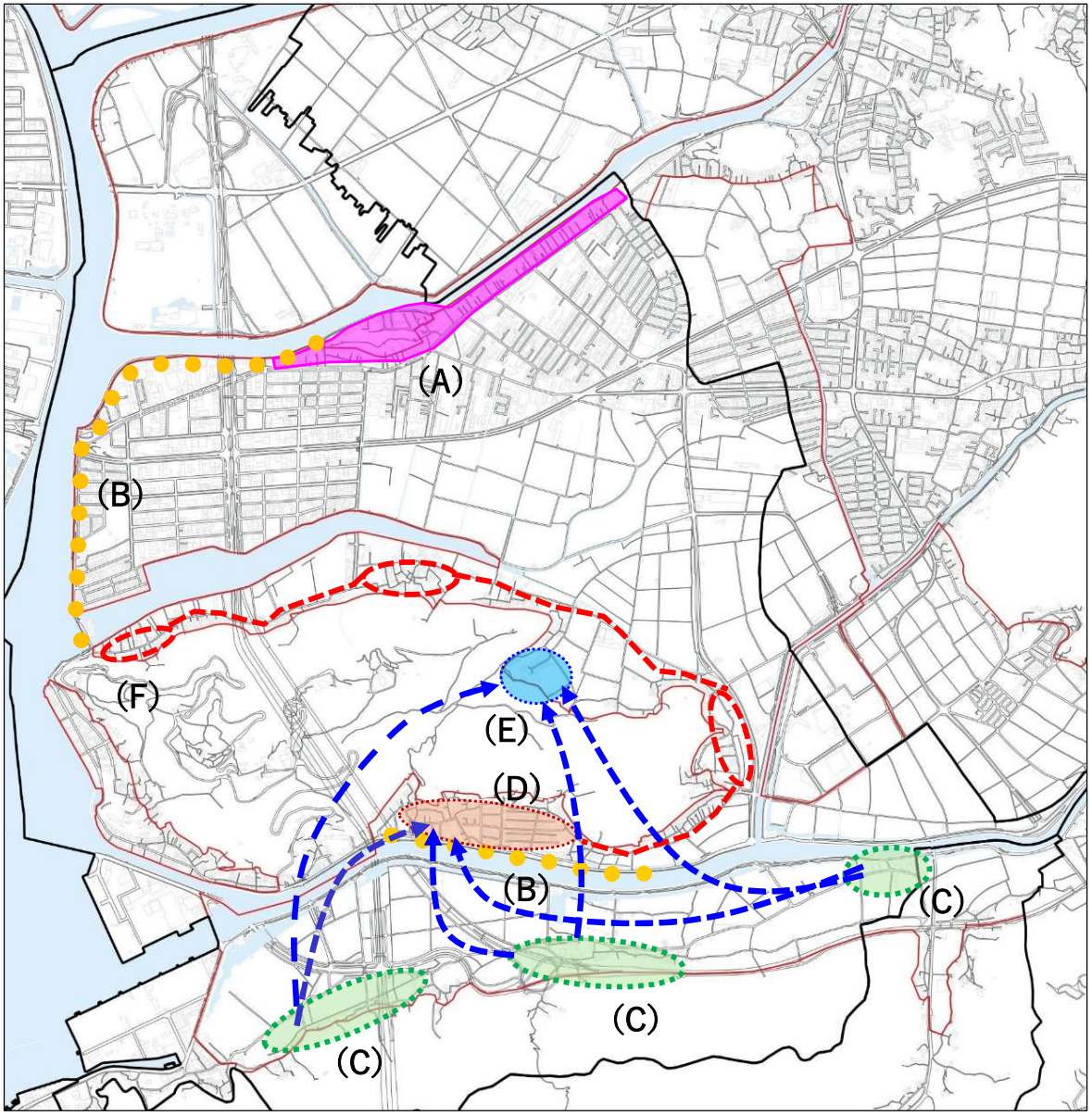
【第２案】現地復興＋移転対応案



- 土地区画整理の嵩上げ対応により現地復興
- 既存公園を活用した防災拠点の整備

第１案
二線堤形成
＋移転対応案

○全体の主な方向性　**面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興**
- 甚大な被害が想定される地区で、面的嵩上げによる津波安全性の高い住宅地を現地再建
- 防災拠点形成による津波避難の安全性向上
- まちの迅速な復興と再生



【高須地区】

(A)　土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討

(B)　二線堤

【五台山地区】

(C)　甚大被害家屋の移転

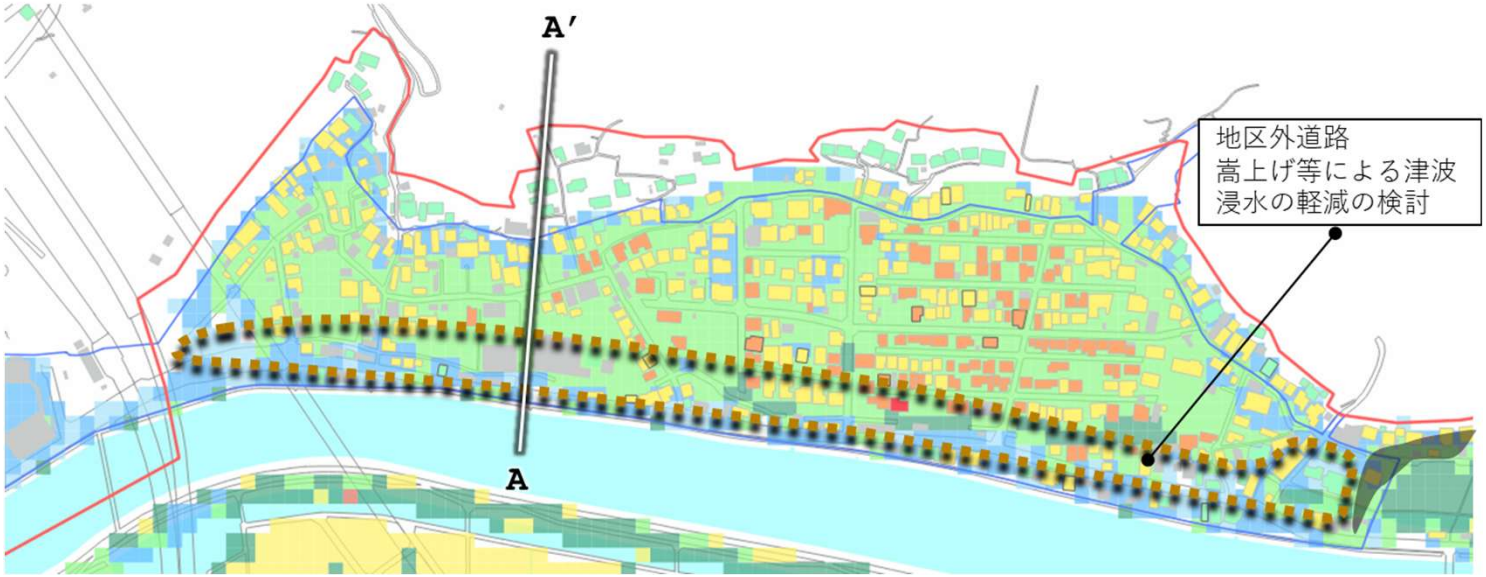
(D)　差込み移転候補地

(E)　集団移転候補地
（県立牧野植物園長江圃場活用の検討）

(F) 道路基盤の整備
安全な避難ルートを確保するため狭隘な生活道路の拡幅の検討

【詳細図（第１案）】二線堤形成+移転対応案

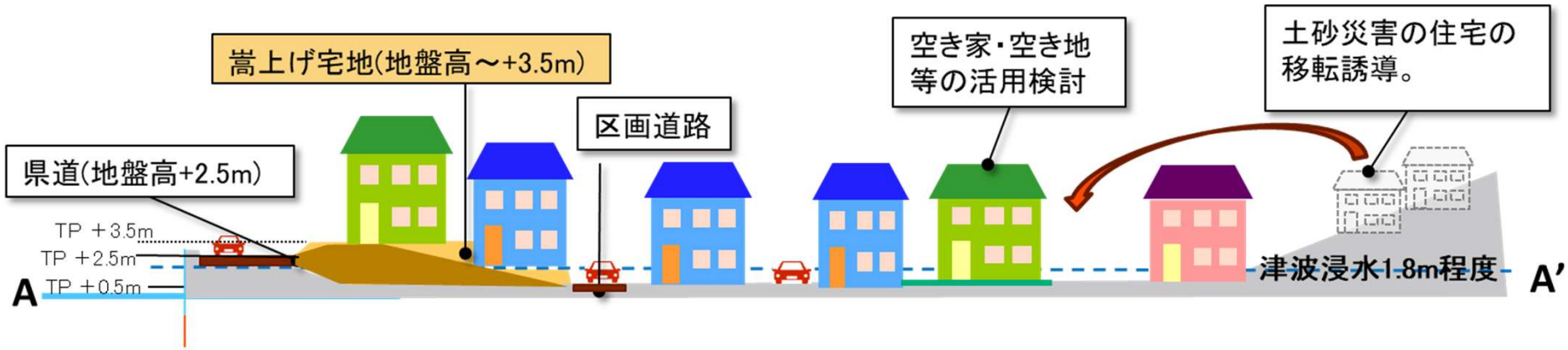
【平面図】



イメージ図

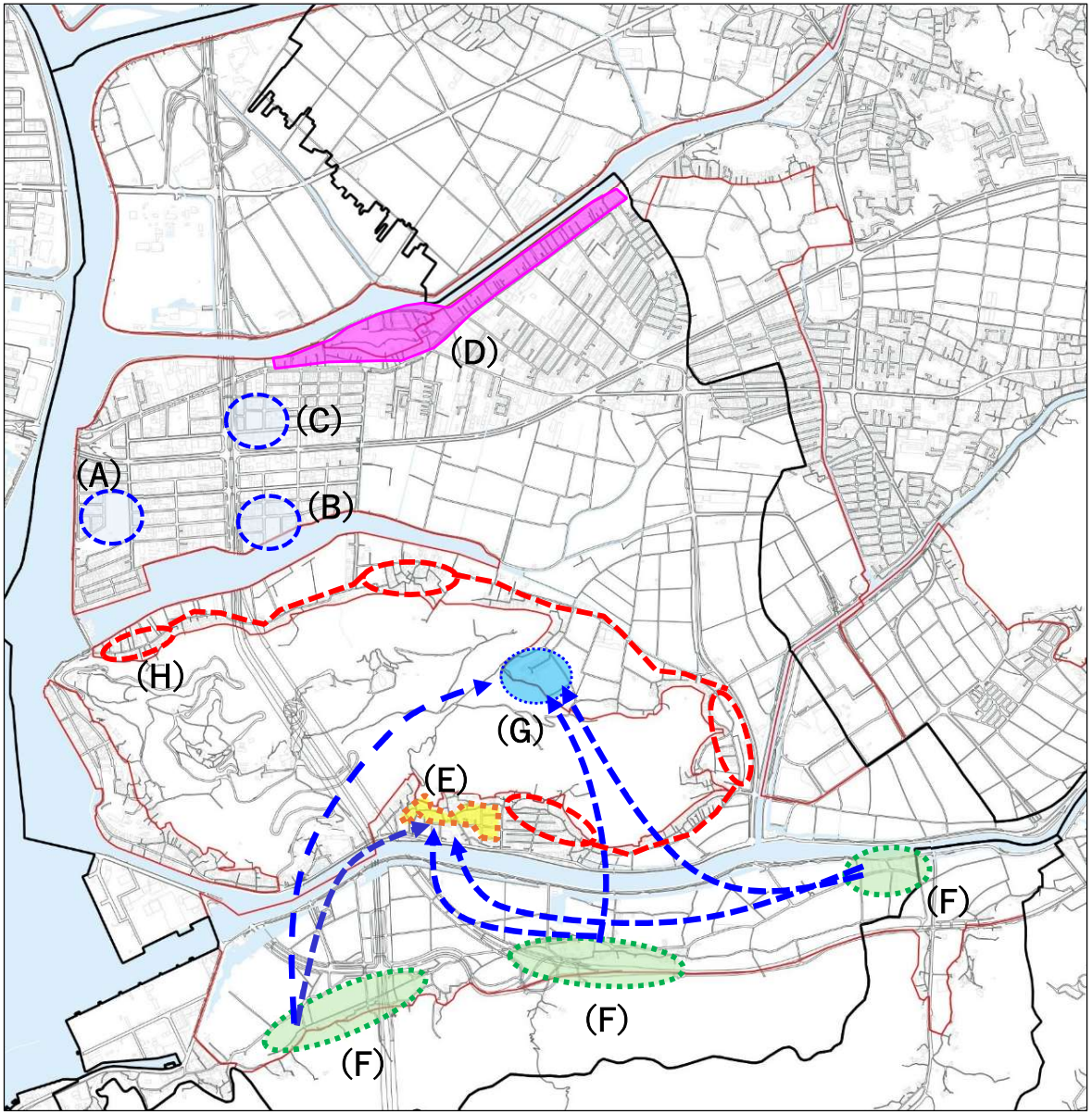


【断面イメージA-A’】



第２案
現地復興
＋移転対応案

○全体の主な方向性　**面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興**
・甚大な被害が想定される地区で、面的嵩上げによる津波安全性の高い住宅地を現地再建
・防災拠点形成による津波避難の安全性向上
・まちの迅速な復興と再生



【高須地区】

(A)　防災拠点（高須公園）
(B)　防災拠点（高須南ノ丸公園）
(C)　防災拠点（高須北の丸公園）

(D)　土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討

【五台山地区】

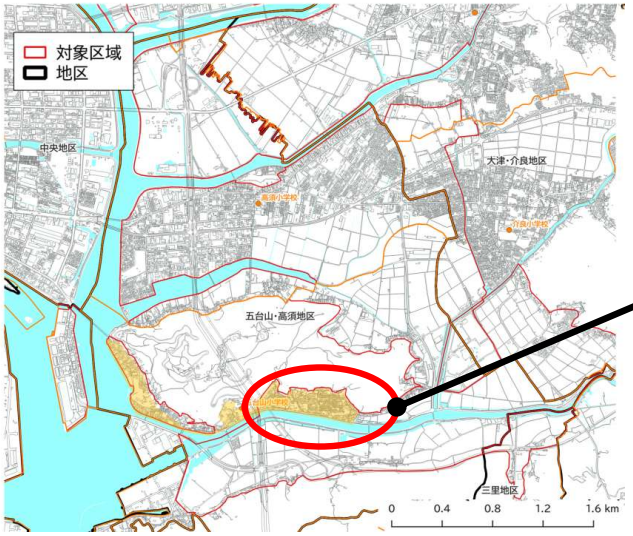
(E)　土地区画整理事業
道路基盤整備検討及び防災拠点となる街区を形成
移転宅地や集合住宅等の検討

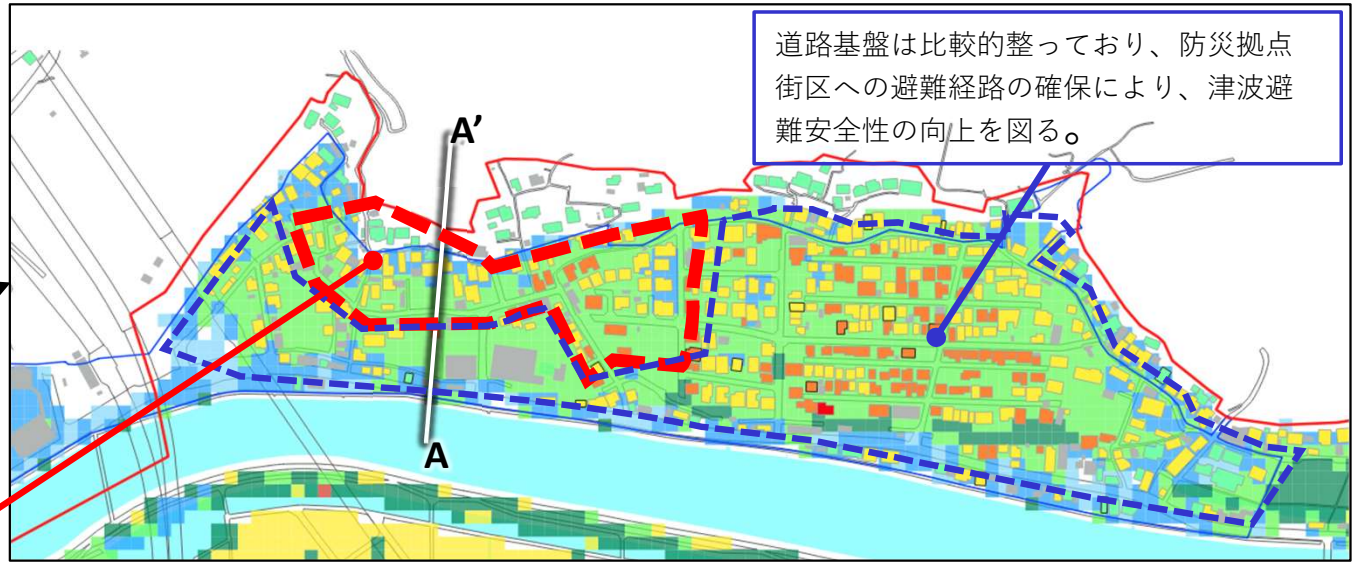
(F)　甚大被害家屋の移転

(G)　集団移転候補地
（県立牧野植物園長江圃場活用の検討）

(H) 道路基盤の整備
安全な避難ルートを確保するため狭隘な生活道路の拡幅の検討

【詳細図（第２案）】土地区画整理事業

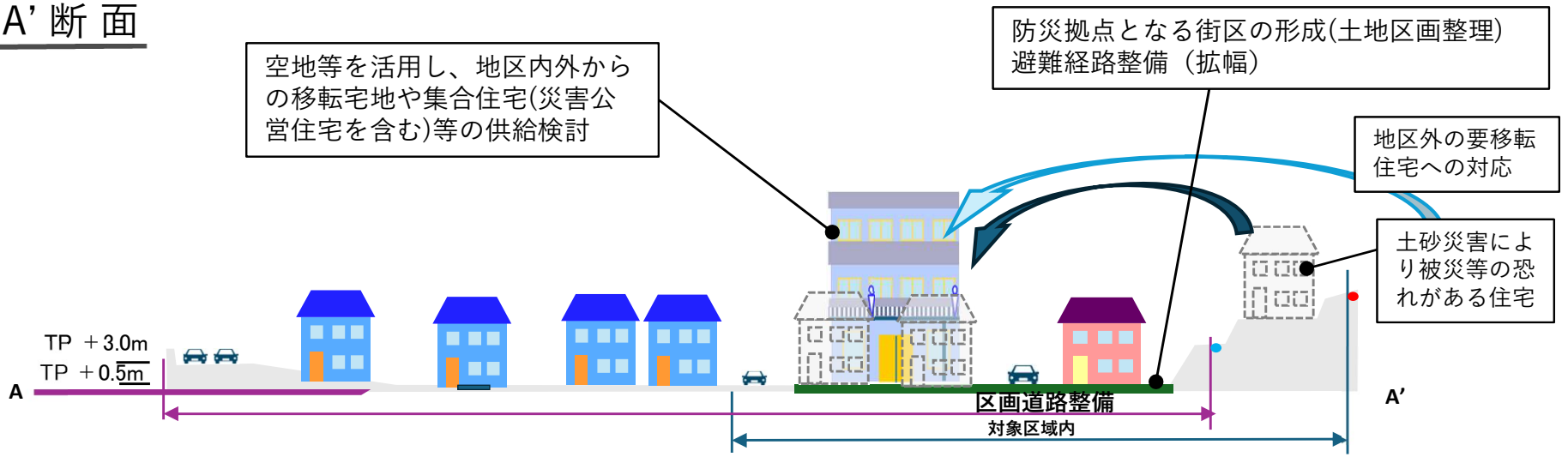




道路基盤は比較的整っており、防災拠点街区への避難経路の確保により、津波避難安全性の向上を図る。

道路等の基盤が整備されていない街区等を中心に基盤整備の検討。地区の津波避難拠点となる街区を形成。

A - A’ 断 面



復興パターンのまとめ

復興パターン	第１案　二線堤形成+移転対応案	第２案　現地復興+移転対応案
ポイント	・住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ・二線堤による安全な市街地復興 ➡二線堤により津波安全性を高めた住宅地への移転	・住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ・甚大な被災が想定される家屋では津波安全性の高い住宅地への移転
活用事業	・土地区画整理事業 ・宅地嵩上げに併せた二線堤の整備 	・土地区画整理事業 ・防災集団移転促進事業  面的な市街地整備による復興イメージ
メリット	・広範囲での防災機能等の安全性向上 ・二線堤整備と宅地の嵩上げを併せた効率的な整備 ・既存宅地への差込み移転による迅速は生活再建	・現地での生活再建、コミュニティの再構築 ・嵩上げ箇所での防災機能等の安全性向上 ・土地利用の最適化(集約化)
デメリット	・合意形成の長期化 ・整備の長期化 ・分散的な移転による既存コミュニティの希薄化	・合意形成の長期化 ・整備の長期化 ・減歩など土地の負担 ・個人負担の増加による再建意欲の低下
事業期間	△　※注1 （被災から７～８年）	△ （被災から７～８年）
個人負担	△　※注2 （土地減歩あり。負担は原則なし。）	△　※注2 （土地減歩あり。負担は原則なし。）
事業費	約262億円	約180億円

※注1：二線堤形成案の場合、個人による再建は嵩上げを必要としないため、再建期間が短縮できます。
※注2：建物が全壊の場合は異なります。
備　考：面的整備を行わない区域における個別嵩上げについては、東日本大震災の復興事業において、行政的な支援実績があります。
液状化による家屋被害への再建費用は、原則個人負担となります。（過去の事例では支援実績あり）

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

ワーク２：**復興パターン２案について、意見を共有しましょう。**

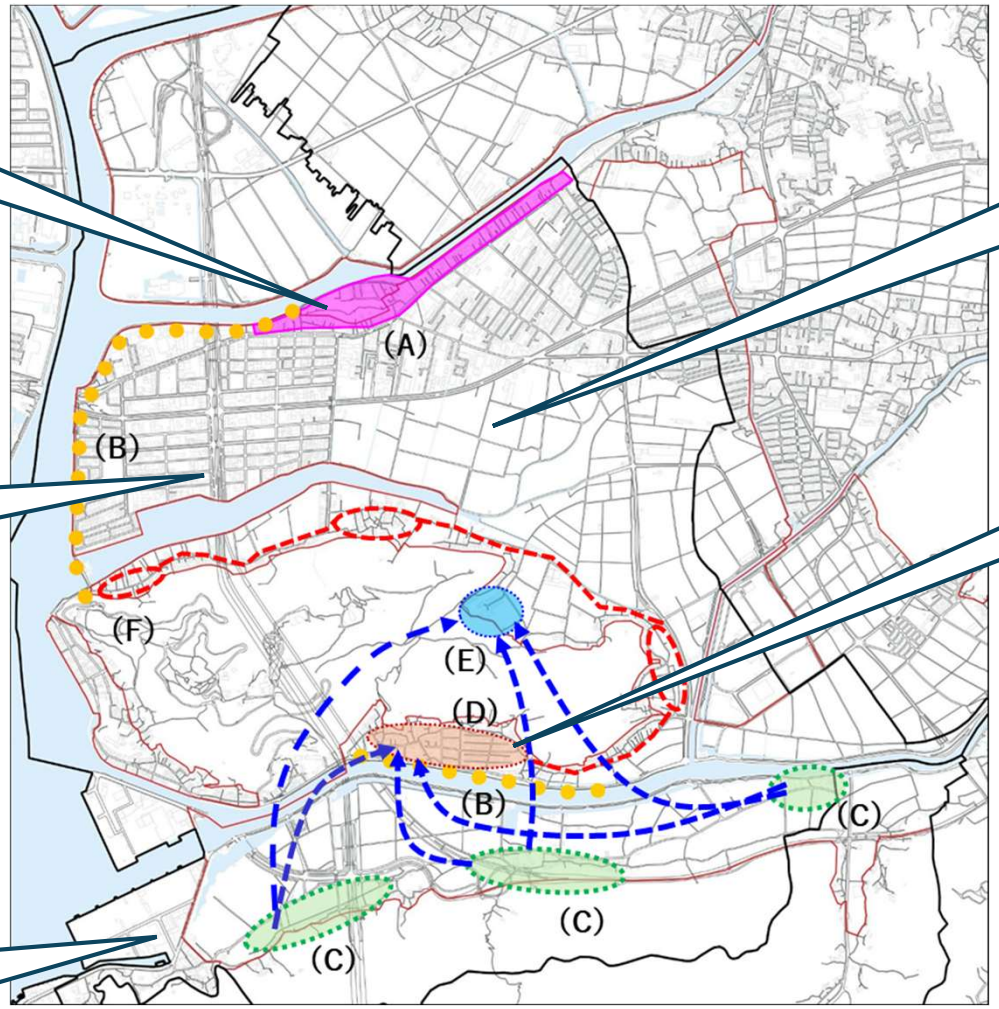
道が広がって
避難しやすい

農業の復興は？

家の修復費用
はどのくらい
必要？

新しいコミュ
ニティが不安…

移転元の
活用は？





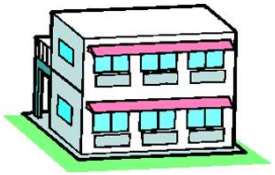
第２回へ意見反映

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

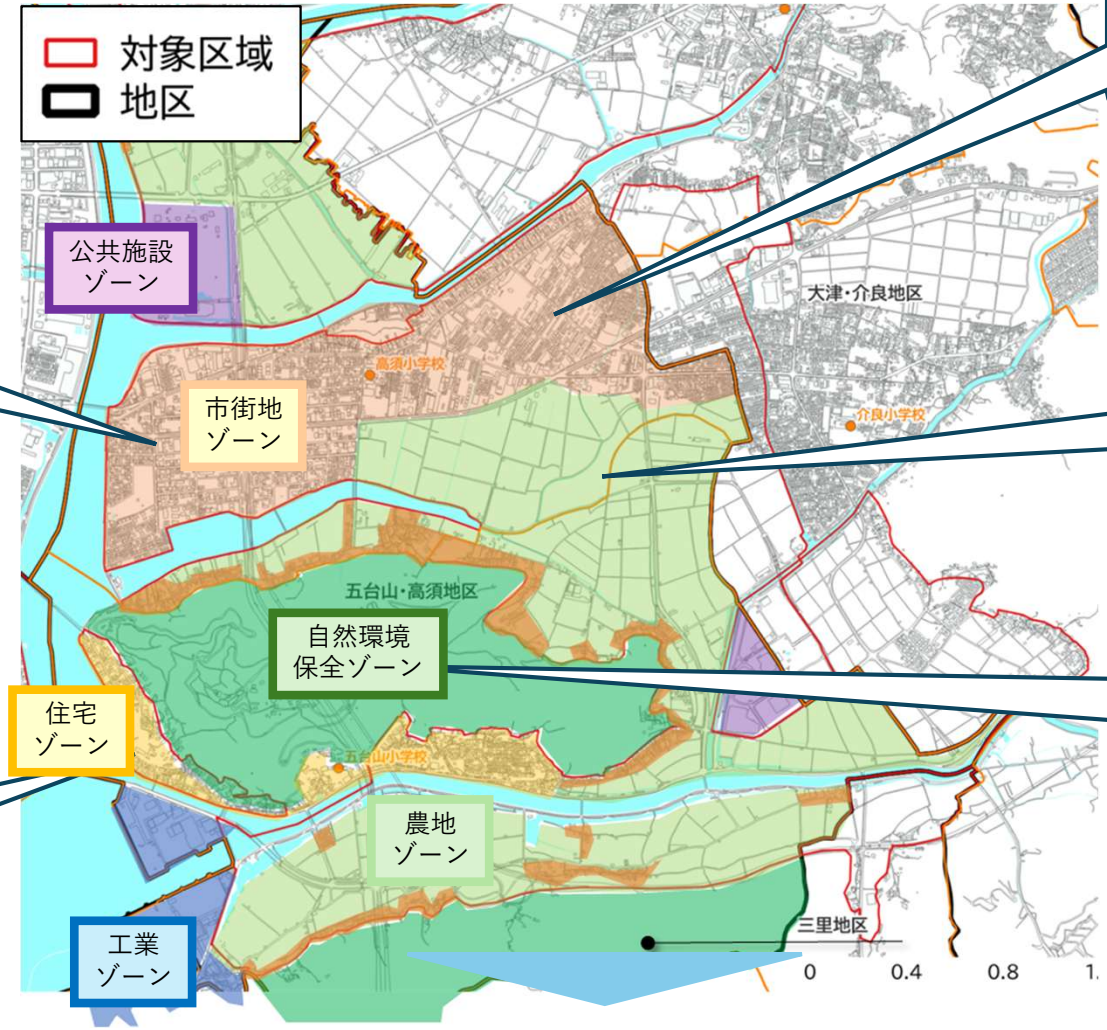
ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。



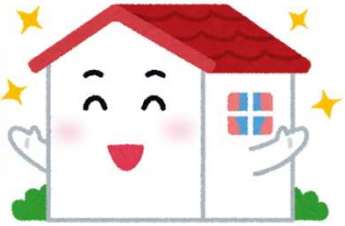
商業施設は
維持してほしい



丈夫な家に
住みたい



津波に強い
まちにしたい



農業の発展



展望台は
維持したい



第２回へ意見反映

次回開催のご案内

第１回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：未定
開催場所：未定
} 決定し次第、案内いたします。

実施内容（予定）
・第１回の振り返り
・意見交換１：目指すべき姿＝ビジョンについて
・意見交換２：修正復興パターンについて
・ワーク４　：速やかに復興するために必要なことについて、
　　意見を共有しましょう。
・まとめ

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォーム、地域の窓口等でも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。

意見投稿用紙配置場所

・五台山ふれあいセンター（設置予定）

意見投稿プラットフォームはこちら→